

雜收入受拂簿  
 學資金書留簿  
 各地送進口別簿  
 仮出口別簿  
 旅費明細簿  
 計算表  
 現金表

第五條 凡ソ金錢ヲ出納スルキハ主任者ニ於テ調査ノ上順次其収支スヘキ金員及事由ヲ  
 回議ニ付シ校長ノ判決ヲ得左ノ手續ヲ經テ出納スヘシ譬ヘ急遽ノ事件寡少ノ金員ト雖  
 亦校長ノ判決ヲ經サレハ出納スルヲ許サス

一 收入金ハ納証書及預ケ書ヲ出サシメ本條ノ手續ヲ經テ主任者預ケ書ニ檢印シテ納入  
 ニ下附シ現金ヲ爲替方ヘ納メ切符ヲ出サシメ而シテ現金受拂簿ニ登記領収証ヲ製シ  
 校長捺印シテ之ヲ納入ニ交付スヘシ

一 支出金ハ本條ノ手續ヲ經テ現金受拂簿ニ登記拂出切符ヲ製シ校長捺印シテ領収証ヲ  
 徴シ之ヲ交付シテ爲替方ニ就キ現貨ト交換セシムヘシ

一 前項ノ手續ニ依リ收入セシ金錢ハ即日支出セシ金錢ハ翌日午前第十一時限リ甲乙帳  
 へ登記シ校長並主任者調印シテ預リ切符及拂出切符ヲ交換スヘシ

第六條 日計表及現金表ハ日々調製シ毎月十日廿日盡日(休暇ナレ)ノ三ヶ日ハ之ヲ縣廳  
 ニ報告スヘシ

十六年七月  
五日迄ニテ  
更正

第七條 金錢ノ支出ハ豫テ爲換方ヘ命シ置タル日割ニ限ルヘシ尤臨時不得止分ハ此限リ  
 ニアラスト雖モ可成前日之ヲ取調爲替方ヘ報告スヘシ

第八條 價格ノ未定ナルモノ(備付品消)ハ代價積書ヲ出サシメ其當否ヲ調査シ第五條ノ  
 手續ヲ經テ買上クヘシ尤物品完納ニ至テ代價仕拂フモノトス  
 但遠隔ノ地ヘ注文ノ類ニシテ前金請求ノモノハ第五條ノ手續ニヨリ送金スルハ此限  
 ニアラス

第九條 現金ハ學校ニ置クコトヲ得サルヲ以テ若シ退校後送金アルトキハ宿直ニ於テ監  
 守シ翌日會計主任者ヘ引渡スヘシ

第十條 物品ノ出納ハ適宜受拂簿ヲ調製シ需用者ノ證印ヲ徴シテ物品ヲ交付シ日々之ヲ  
 合計シテ校長ノ檢印ヲ受クヘシ

第十一條 用品ハ校長ノ判決ヲ得入札拂ヲ以テ拂下ヘシ尤價五圓ト認ルモノハ本廳經  
 伺ノ上處分スヘシ

第二章 經費精算

第十二條 經費定額金ハ豫算高ヲ十二分シ毎月之ヲ縣廳ヘ差出スヘシ

第十三條 經費ハ左ノ科目ニ依リ精算スヘシ

俸給  
 雜給  
 諸雇給  
 爲替方給料  
 門監及給仕小使給臨時雇



恩賞  
旅費  
備品  
消耗品  
運搬費  
郵便税  
電信料  
生徒費  
建築修繕費  
建築費  
諸賄料  
雜費

第十四條 實費種目ノ編入ハ前條ニ準據スヘシト雖モ異例ニ涉ルモノハ縣廳經伺ノ上支出編入スヘシ

第十五條 經費ノ勘定ハ歲計ヲ四分シ一期(自七月至九月チ一期)トス以下之ニ做フヨリ三期マテハ翌月十日限リ四期ハ七月十日縣廳ヘ進達スヘシ

但諸拂證書ハ毎科目ヲ類別シテ保存スヘシ

第十六條 諸收入金ハ左ノ區分ニ據リ月纏ヲ以テ仕譯書ヲ添翌月五日限リ縣廳ヘ納付スヘシ

授業料

書籍拂代  
用品拂代  
退學主返納學資

○第二百十八號 明治十七年十一月十四日 警察本署 監獄本署  
秋田師範學校 秋田中學校

諸經費勘定仕上之儀左之通更正候條本年十月ヨリ施行可致此旨相達候事

一 諸經費勘定仕上ケハ一周年度ヲ十二分シ每一ケ月分宛勘定帳編製シ翌月三日 年度末日 各地差立本廳ヘ回送スヘシ

一 諸費ノ仮拂アルトキハ本拂ト均シク當該科目ニ編入シ而シテ仮拂仕譯書ヲ勘定帳ヘ添付スヘシ

一 假拂金ノ精算ニ際シ過超返納アルトキハ勘定帳本受ノ部ニ(本月戻入高)ノ一區ヲ設ケ而シテ其内譯細科目ヲ分チ整理スヘシ

○達第百六十號 明治十八年十月十五日 會計課

經費流用仕譯書之儀ニ付各郡役所其他ヘ別紙之通リ發達候條爲心得此旨相達候事  
(別紙)

各郡役所 警察本署  
各警察署(秋田署) 監獄本署  
秋田師範學校(ヲ除ク) 秋田中學校

地方税ニ屬スル諸經費豫算確定後實際仕拂之都合ニヨリ不得止各科目之金額彼是流用ヲ



要スル場合ニ至リ成規ニ從ヒ伺出候節ハ爾後別紙書式ニ倣ヒ仕譯書調成可差出此旨相達候事

●(警察本署へ左ノ但書ヲ加フ)

但各警察署へモ本文之通相達候條此旨心得へシ

(用紙美濃界紙)

何年度

郡役所經費

役場經費

何々費

科目流用仕譯書

●(但毎費目各通ニスヘシ)

仕拂見込高金

一金

何費不足

是ハ何々ノ事由ニテ不足相生候見込ニ有之候

但何費ヨリ流用

外

金

現豫算高

仕拂見込高金

一金

何費不足

金

何費ヨリ流用

内 金

是ハ事由前ニ全シ

何費ヨリ流用

外

金

現豫算高

現豫算金

一金

何費殘額

是ハ何々ノ事由ニテ殘額相生候見込ニ有之候

但何費へ流用

外

金

仕拂見込高

現豫算高金

一金

何費殘額

内 金

何費へ流用

金

何費へ流用

是ハ事由前ニ同シ

全ク殘

外

金

仕拂見込高

右ノ通候也



○廳第二十九號		
明治十何年何月何日臨時寄托		
明治十何年何月何日 何郡役所印	摘要	金
	臨時寄托	圓
	何々費何年何月何日ヨリ受入高	一二
	何年度何費全上	四
	何年度何費何年何月何日全上	一〇〇
	何々費全上	〇
	締高	一一七
	仮収入	
	何年度何税何年何月何日受入高	五〇
	何々何年何月何日ヨリ全上	八
	何々全上	一
	締高	五九
	繰替金	
	何年度何費何年何月何日繰替高	七
	何々費何年何月何日ヨリ繰替高	三
締高	一〇	

明治十九年四月三十日

警察本署 監獄本署

○達第百六十五號		
明治十八年十月廿八日		
臨時寄托其他内譯表之儀ニ付各郡役所へ別紙之迪リ相達候條爲心得此旨相達候事		
臨時寄托及假収入繰替金等調査之都合有之候條向後別紙離形ニ倣ヒ内譯表調成毎月盡日計表ニ添付可差出此旨相達候事		
各郡役所		
會計課		
何所印		
年號 月 日		
其他小科目内譯表		
額	類	末
錢 厘	何々事故アリ未決算ノ處即今何々ノ取計致候ニ付何月何日迄完結可致候	
〇〇	〇	
五〇	〇	何々
〇〇	〇	何々
六七	〇	何々
一七	〇	
〇〇	〇	何々
〇〇	〇	何々
〇〇	〇	何々
〇〇	〇	
〇〇	〇	何々
〇〇	〇	何々
〇〇	〇	



地方費ニ属スル各經費豫算流用ノ儀明治十九年度以降左ノ浦之ヲ定ム

一俸給ハ何様ノ事故アルモ他ノ科目ト流用スルヲ許サズ

一雜給以下大科目ノ流用ハ萬不得止場合ニ限り稟請ニ依リ許可スルヲアルヘシト雖モ其年度一月一日以降ニ於テ流用ノ許可ヲ請フコトヲ得ズ

但精算上ノ過不足又ハ著大ノ事故アルトキハ此限リニアラズ

右相達ス

○第十五號

明治十九年四月三十日

秋田師範學校 秋田中學校

(譯文同上)

○廳第四十六號

明治十九年五月十二日

會計課

集治監費取扱方ノ儀ニ付別紙ノ通り監獄本署及各警察署へ相達候條此旨相心得移轉費ハ其課ニ於テ管理スヘシ

右相達ス

○廳第四十五號

明治十九年五月十二日

警察本署各警察署(秋田警察署ヲ除ク)

各府縣ヨリ集治監へ移送スル囚徒ニ係ル移轉費ハ從來監獄本署ヨリ交付候所本年五月以降本廳ヨリ下渡候條一時其署經費ヲ以テ繰替置實費證書取續メ前月分三日限り其地差立本廳へ請求スヘシ

右相達ス

○廳五十七號

明治十九年五月廿六日

會計課

囚徒移轉費ノ儀ニ付別紙ノ通警察本署へ相達候條此旨心得ヘシ

右相達ス

○廳第五十六號

明治十九年五月廿六日

警察本署

各府縣ヨリ集治監へ移送スル囚徒ニ係ル移轉費ハ一時各署經費ヲ以テ採換置實費請求可致旨本月十二日廳第四拾五號ヲ以テ相達置候處自今概算ニテ下渡候條每一ケ月前月廿日迄ニ請求シ實費仕拂ノ上證書取續メ翌月三日限り精算書差出スヘシ

但六月分樣算金ハ此際請求スヘシ

右相達ス

○廳第五十九號

明治十九年五月廿七日

警察本署

其署及各警察署(大館警察署ヲ除ク)主管ニ属スル警察官吏拾得物及ヒ贓物公賣代金ハ本年三月開令第三號歳入歳出々納規則及ヒ同年三月大藏省令第四號歳入取扱順序ニ據リ可取扱義ニ付自今公賣確定ノ上ハ落札人名金額及ヒ徴収期日ヲ定メ其都度報告スヘシ

但徴收監査簿ハ別紙書式ニ據リ調製スヘシ

右相達ス

(別紙書式)

徴收監査簿書式

第何號

一金何圓何錢

納領告知書金庫領收ノ証書本人持參

何

是ハ明治何年何月何日何々品入札拂下代何月何日迄徴収ノ分

何郡何町村拂受人

誰

同

同







第十二條 旅行中歸省其他私事ノ爲メ許可ヲ得テ迂路ヲ通過スルトキハ順路ノ行程ニ應  
 シ旅費ヲ支給スルシ  
 第十三條 旅行中廢官死亡又ハ諭旨退官シタルモノハ前官相當ヲ以テ舊任地マテノ旅費  
 ヲ支給スヘシ  
 第十四條 前二條ノ場合ニ於テ日當ヲ支給スル爲メ其日數ヲ計算スルハ滯車旅行ハ一日  
 二百哩詰滯船旅行ハ一日百海里詰陸路旅行ハ一日十二里詰トス但距離接近シテ數種ノ  
 旅行相跨ルトキハ各其路程十二分ノ一ヲ以テ一時間ノ行程トス一日旅行時間ハ十二時  
 間トシ其日數ヲ計算スヘシ  
 第十五條 非常急行上司隨行等ノ如キ場合ニ於テ定額ノ車馬ヲ以テ支辨シ難キト見認ム  
 ルトキハ本廳へ經伺ノ上隨時貸費拂ヲ爲ヌコトヲ得  
 第十六條 海灣河湖等ノ海里ヲ以テ路程ヲ算セサル場合ハ里數ニ應シテ車馬賃ノ額ヲ支  
 給スヘシ  
 第十七條 海里ノ距離ハ明治五年第三百三十號布告ニ據ルヘシ  
 第十八條 兼官者其兼官ノ用務ニ據リ旅行スルトキハ兼官相當ノ旅費本官兼官ノ用務ヲ  
 兼ヌルトキ及兼官無給ナルトキハ本官相當ノ旅費ヲ給スヘシ

旅費額

等	級	派	車	賃	派	船	賃	派	外	管	車	馬	賃	派	內	管	車	馬	賃	派	外	日	當	派	內	日	當
一哩每ニ	一哩每ニ	一海里每ニ	一里每ニ	一里每ニ	一日每ニ	一日每ニ	一日每ニ	一日每ニ	一日每ニ	一日每ニ	一日每ニ	一日每ニ	一日每ニ	一日每ニ	一日每ニ	一日每ニ	一日每ニ	一日每ニ	一日每ニ	一日每ニ	一日每ニ	一日每ニ	一日每ニ	一日每ニ	一日每ニ	一日每ニ	

月俸四拾圓以上	金六錢	金六錢	金拾四錢	金八錢	金九拾錢	金五拾錢
月俸四拾圓以下	金六錢	金六錢	金八錢	金六錢	金七拾錢	金四拾錢

○廳令第十九號 明治十九年九月三十日 第一部 第二部 収稅部 警察本部  
 本縣雇員月俸支給規則左之通り相定メ來ル十月一日ヨリ施行ス

秋田縣雇員月俸支給規則

第一條 雇員俸給ハ翌月一日支給スルモノトス但休日ニ當ルトキハ順次探下ケトス  
 第二條 新任ノ時ハ事務ニ就キタル當日ヨリ日割ヲ以テ支給スル者トス  
 第三條 増俸減俸ハ發令ノ翌日ヨリ起算シ其當月分ハ日割ヲ以テ計算スルモノトス  
 第四條 解僱及ヒ死亡ノ時ハ日割ヲ以テ其當日迄ノ俸給ヲ支給スルモノトス  
 第五條 轉任ノ時ハ前在勤廳ノ事務ヲ終リタル翌日ヨリ新任俸給ヲ支給スルモノトス  
 第六條 公務ニ由リ旅行スルモノ第一條ノ定日旅行日積日數内ニ在ルトキハ該月分ノ俸  
 給ヲ探上テ支給スルヲ得  
 第七條 病氣其他私事ノ故障ニ由リ出勤セサルモノハ其間俸給ヲ支給セサルモノトス但  
 大祭日祝日日曜日ノ休暇忌引及ヒ公務ノ爲メ傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタルモノハ此  
 限ニアラス

第八條 日割計算ノ法ハ月俸額ヲ其月ノ現日數ニ割合計算スルモノトス  
 ○廳第二十六號 明治十九年十月廿九日 第二部  
 監獄會計取扱順序左之通り相定メ來ル十一月一日ヨリ施行ス

廿年十一月  
 第三百二  
 改正



會計取扱順序

- 第一條 監獄費ハ豫算決定ノ後知事ヨリ之ヲ監獄課ニ達シ監獄課ハ該達ニ因リ更ニ各監獄ノ費額ヲ査定シ知事ノ認可ヲ得テ之ヲ定ムヘシ
- 第二條 前條ノ經費ハ一ヶ月分ツ、之ヲ會計課ヨリ送付スヘシ該金額収ノ上ハ別紙第一號雛形ニ照準領収証差出スヘシ
- 第三條 集治監ニ入ルヘキ囚徒在監中ノ諸費ハ既決囚同様定額内ヲ以テ支弁シ置キ翌月三日迄人員及金額トモ會計課ヘ報告スヘシ
- 第四條 苦役者及一時留置人等ニ係ル諸費ハ豫メ下渡サス故ニ罪囚全權任賄置キ翌月五日マテ各所ヘ請求シ直チニ飯糧代ノ科目ヘ戻入ヲ爲スヘシ
- 第五條 製造品及不用品ノ賣却代ハ明治十九年十月八日廳令第二十三號ニ因リ監獄課ヲ經由送納スヘシ
- 第六條 看守及押丁懲罰金ハ俸給ヨリ扣除シ前條ノ手續ニ因リ送納スヘシ
- 第七條 凡ソ金穀物品ヲ出納スルハ專ラ典獄ノ管掌ニシテ第二科ニ於テ之ヲ調理スルモノトス尤モ現金ハ爲替方ヲシテ管守出納セシムヘシ  
但爲替方取締ノ方法ハ別ニ定ムル命令書ニ由ル
- 第八條 収入スヘキ金錢ハ納人ヨリ納金證書ヲ出サシムヘシ  
但製造品賣却代金壹圓未満ハ此限リニアラス
- 第九條 前條證書ハ第二科ニ於テ之ヲ調査シ典獄ノ判決ヲ得テ現金ヲ爲替方ヘ納メ預リ切符ヲ出サシムヘシ而シテ納金證書ニヨリ現金受拂簿ニ登記シ領収證書ヲ作り典獄ノ捺印ヲ得テ納人ニ上付スヘシ

- 第十條 支出スヘキ金錢ハ正當受取人ヨリ請求書及受取證書ヲ差出サシムヘシ
- 第十一條 前條証書ハ第二科ニ於テ之ヲ調査シ不都合ナキト認ムルトキハ費途及科目ヲ定メ典獄ノ判決ヲ得テ現金受拂簿ニ登記シ振出切符ヲ作り典獄ノ捺印ヲ得而シテ后受取人ヲシテ受領證書ニ押印ヲサシメ切符ヲ交付シ爲替方ニ就キ現金ト交換セシムヘシ
- 第十二條 金錢ヲ各所ヨリ遞送シ來ルトキハ第八條第九條ニヨリ典獄ノ判決ヲ得テ爲替方ヘ預入即日収入スルモノトス
- 第十三條 金錢ヲ各所ニ送還スルトキハ現金ト爲替券等ヲ問ハス凡テ第二科ニ於テ支出證書ヲ製シ典獄ノ判決ヲ得テ支出ノ手續ヲ了スヘシ
- 第十四條 物品ヲ購入スルトキハ第二科ニ於テ見積書ヲ出サシメ價額ノ當否ヲ調査シ典獄ノ判決ヲ得テ買入ヲ爲スヘシ
- 第十五條 備品及備消耗品ハ凡テ帳簿ニ登記シ需用者ニ証印セシメ而シテ後出納スヘシ
- 第十六條 出納簿冊及計表ハ別紙第二號簿名之通り模本ニヨリ調製スヘシ  
但補助簿ニ限リ必用ト認ムルトキハ増設スルヲ得
- 第十七條 當日ノ出納ニ係ルモノハ其翌日限リ悉皆起帳計算表ヲ製シ日々典獄ノ認印ヲ得ヘシ
- 第十八條 計表ハ毎月十日廿日尽日 休暇ナレノ三ヶ日ハ現金科目表ヲ添ヘ會計課ヘ報告スヘシ



第十九條 經費勘定帳ハ別紙第三號書式ニ照準シ實費證書ト共ニ監獄課ヲ經由シ翌月三日年度末ハマテ差出スヘシ  
 但勘定科目ハ明治十六年七月五日第五百五號達ニ據ル  
 第二十條 經費中支出ノ狀況ニヨリ各科目流用ヲ要スルトキハ明治十九年四月卅日廳第二十九號達ニヨリ施行スヘシ  
 但細科目ノ流用ハ監獄限リ專行スルヲ得

第一號 証

一金何程

何月分經費

內

金何程 俸給

金何程 雜給

金何程 廳費

金何程 未決囚諸費

金何程 已決囚諸費

右正ニ受取候也

何監獄典獄 何ノ 誰印

年號月日

長官宛

第二號 出納簿冊名書

現金受拂簿

日記簿

原簿

日計表

經費內譯簿

雜收入內譯簿

犯囚寄托人別簿

犯囚給與寄托人別簿

除賣買雇主人別簿

苦役者收入人別簿

別房留置者收入人別簿

飯出口分簿

雜種必需品差引簿

食糧受拂明細簿

以上

(摸本署之)

第二號付屬 原簿題號

貸方

年度經費

本廳



犯囚寄托 犯囚給與寄托 臨時寄托 權収 別房留置者収入 出願懲治者収入 苦役者収入 工業元仕入 工錢差増 借方 地方税 年度雜収入 預金局 工業素品 工業製造品 出願懲治者 苦役者 一時留置人 出監人
--

工錢差減  
以上

用紙美濃紙

年號何年何月分經費勘定帳

第三號

何 監 獄

一金

元受高

內 祿

俸給

金 內

前月ヨリ越高

金

●茲ニ越高ヲ掲ケルハニヶ月ヨリノ例ナリ以下全斷

何月何日本廳ヨリ受取

金

雜給

金 內

前月ヨリ越高

金

何月何日本廳ヨリ受取

金 內

應費











右訓令ス

(別紙)

秋田縣尋常師範學校職員俸給支給規則

第一章 通則

第一條 願濟休暇旅行ノモノ及私事ノ故障(自己ノ病氣ヲ除ク)ニ由リ出勤セサルモノ三十日以後ハ日割ヲ以テ俸給ノ半額ヲ減スルモノトス

第二條 病氣(轉地療養トモ)ニ由リ出勤セサルモノ九十日以後ハ日割ヲ以テ俸給ノ半額ヲ減スルモノトス

但公務ノ爲メ傷疾ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタルモノハ此限りニアラス

第三條 退職及死亡ノトキハ當月分ノ俸給ヲ支給シ日割ヲ以テ計算セス

第四條 退職ノモノ事務引續ノ爲メ特ニ命ヲ受ケ公務ニ從事スルトキハ其間尙ホ前任ノ俸ヲ給與ス

第五條 第一條ノ場合ト第二條ノ場合ト相續テ起ルトキ其第一條ニ始リ第二條ニ終レハ其間通算シ九十日ノ後俸給ヲ減ス第二條ニ始リ第一條ニ終レハ其間通算シ三十日ノ後俸給ヲ減ス

第六條 他處出張中退職ノトキハ其命令到達ノ月マテ尙ホ從前ノ俸ヲ給ス

第七條 降等減俸賜暇旅行病氣其他ノ事故ニヨリ俸給ヲ追徴スヘキモノアスルキハ年俸ハ次期月俸ハ翌月ノ俸給ヨリ差引計算スルモノトス

第八條 忌引ニ由リ出勤ス能ハサル場合ニ於テハ本則第一條第二條ノ日數ニ算入セス

第九條 年俸ハ之ヲ四分シ二月五月八月十一月ノ四期トシ每期其月四日ニ於テ支給スルモノトス

但休日ニ當ルトキハ順延トス

第十條 増俸減俸ハ發令ノ翌日ヨリ起算シ其當月分ハ日割ヲ以テ計算スルモノトス

第十一條 新任轉任ハ發令ノ翌日ヨリ起算シ其當月分ハ日割ヲ以テ計算スルモノトス

第十二條 轉任ノ場合ニ於テハ發令ノ日マテ前任處ヨリ其俸給ヲ支給スルモノトス

第十三條 日割計算法ハ年十二分ノ一ヲ以テ一ヶ月分トシ其月ノ現日數ニ割合計算スルモノトス

第三章 月俸

第十四條 月俸ハ毎月廿六日ニ於テ支給スルモノトス

但休日ニ當ルトキハ順次繰上トス

第十五條 増俸減俸ハ發令ノ翌日ヨリ起算シ其當月分ハ日割ヲ以テ計算スルモノトス

第十六條 新任ノトキハ職務ニ就キタル當日ヨリ日割ヲ以テ支給スルモノトス

第十七條 轉任ノトキハ前任處ノ事務ヲ終リタル翌日ヨリ新任ノ俸給ヲ支給スルモノトス

第十八條 公務ニ由リ旅行スルモノニハ第十四條ノ定日ニ拘ハラズ翌月マテノ俸給ヲ給スルモノトス

第二類 第六 會計

九百三十一

九百三十一











計課ノ査閲ヲ經ヘキモノトス

第四條 金錢ノ出納ハ知事ノ命令ニ依リ國庫金ニ屬スルモノハ會計主務地方費ニ屬スルモノハ會計課長之ヲ執行ス

第五條 第二部歳入ハ會計課ニ於テ豫算書ヲ調成シ知事ノ裁定ヲ經主管廳ヘ傳達スソノ豫算ニ増減アルトキハ尙ホ主管廳ヘ報告スヘシ

第六條 第三部歳出ハ會計課ニ於テ豫算書ヲ調製シ知事ノ裁定ヲ受ケ主管廳ヘ送付スヘシ

第七條 地方費ノ收支豫算ハ會計課ニ於テ知事ノ令達ヲ受ケ議案ヲ作り第二部長決判ノ上記帳シ其收支ヲ施行スヘシ

第八條 歳入歳出豫算ノ令達アルトキハ會計課ニ於テ議案ヲ作り會計主務決判ノ上記帳ニ登記スヘシ

第九條 第二部歳入豫算ノ裁定アルトキハ會計課ハ知事ノ決判ヲ得月額豫算表ヲ調製シ主管廳ヘ發送スヘシ但收入期節ノ豫定シ難キモノハ此限リニアラス

第十條 第三部歳出豫算ノ裁定アルトキハ會計課ニ於テ月額任譯書ヲ製シ知事ノ決判ヲ受ケ主管廳ヘ發送スヘシ但支出期節ノ豫定シ難キモノハ支拂ヲ要スル毎ニ本條ノ手續ヲ爲スヘシ

第十一條 前條ノ承認ヲ受ケタル後期節若シハ金額ノ變更ヲ要スルトキハ更ニ前條ノ手續ヲ了スルモノトス

第十二條 第三部歳出豫算科目節以下ノ流用ハ會計課ニ於テ議案ヲ作り知事ノ決判ヲ受

クヘシ

地方費科目ノ流用ハ主務課ニ於テ議案ヲ作り會計課通議ヲ經知事ノ決判ヲ得ヘシ

第十三條 第三部歳出科目ノ廢置變更ヲ要スルトキハ會計課ニ於テ議案ヲ作り知事ノ決判ヲ得主管省ノ承認ヲ受クヘシ

第十四條 金錢物品ノ出納記簿ハ會計主務又ハ會計課長ノ決判書ニヨリ登記スルモノトス

第十五條 歳入歳出ニ關スル帳簿ハ成規ニ基キ之ヲ設ク其廢止變更ヲ要スルトキ事由ヲ具シ主管廳ヘ稟議スヘシ

第十六條 定式ナキ帳簿若シハ物品ニ關スル帳簿ハ知事ノ決判ヲ以新設變更スルヲ得ヘシ

第十七條 記帳後誤謬ヲ發見スルトキハ其事由ヲ詳記シタル會計主務又ハ會計課長ノ決判書ニ基キ訂正スルコトヲ得ヘシ

第十八條 原簿計算表ハ日々之ヲ調製シ知事ノ檢閱ニ供スヘシ

第十九條 金錢出納ハ退廳時限二時前之ヲ閉鎖ス但シ臨時至急ヲ要スルモノハ本條ノ限リニ非ラス

第二十條 金錢ノ出納ハ左ノ各項ニヨリ會計課之ヲ調査シ會計主務又ハ會計課長ノ決判ヲ受クヘシ

収入ノ部

第一項 第二部歳入ハ取扱主任官ノ收入任譯書及金庫ヨリ還付セル上納副書又ハ納付



正書

- 第二項 地方費ハ郡長又ハ取扱主任官仕譯書或ハ本人納証書(地方税並ニ公儲金等ハ別ニ定ムル處ノ規則ニヨルモ)
- 第三項 雜部金ハ取扱主任官ノ収入仕譯書或ハ本人ノ上納証書若シハ各廳ノ通知書支出ノ部
- 第四項 俸給筆墨料並ニ辨細料等ハ會計課主任官ノ明細仕譯書
- 第五項 惠與ニ係ルモノハ其主務課ノ通知書本人ノ請求書
- 第六項 旅費及傭人料其他定例ニヨリ隨時支拂フモノハ主務課認印アル本人ノ請求書
- 第七項 物品購入代及修繕料ハ主務課認印アル本人ノ請求書
- 第八項 物品運搬營繕土木費ハ主務課ノ認印アル本人ノ請求書(請負ニ係ルモノハ約シハ)或ハ主務課ノ通知書(請負ニ係ルモノハ約シハ)
- 第九項 定例成規外ノ經費ハ知事ノ決判書
- 第十項 會計整理期限內過渡金ノ返納ハ取扱主任官ノ仕譯書若シハ本人ノ上納書
- 第十一項 俸給線上旅費其他ノ概算支出ニ掛ルモノハ其主務課ノ認印アル本人ノ請求書
- 第十二項 諸經費中特ニ概算支出ヲ要スルモノハ知事ノ決判書
- 第十三項 郡役所其他各地出張員等へ交付スル第二部及第三部歳出ハ其請求書又ハ月割豫定額調書
- 第十四項 地方費中郡役所其他ニ關スルモノハ其ノ請求書又ハ取扱主任官ノ仕譯書
- 第十五項 神社費ハ主務課ノ認印アル社務所主任ノ請求書

第二類 第六 會計

- 第十六項 年金恩給ハ本人若シハ遺族者ノ請求書(賞勳年金証書生存証書等點檢スヘシ)
- 第十七項 雜部貸付金ハ本人ノ請求書
- 第二十一條 第二部歳入ハ主務課ノ通知書ニヨリ會計課ニ於テ彙帳ニ記入シ納額告知書ヲ調製シ會計主務捺印之上之ヲ納人ニ交付スヘシ  
但郡長特任ニ係ルモノハ其徵収額ヲ通知ス
- 第二十二條 歳入歳出報告書ハ會計課ニ於テ毎月之ヲ調製シ知事決判ノ上歳入歳出取扱順序ニヨリ主管廳へ發送スヘシ
- 第二十三條 第二部歳入ニ屬スル既納金ノ下戻ヲ要スルトキハ會計課ニ於テ下戻計算書ヲ作り知事ノ決判ヲ受テ歳入取扱順序ニヨリ主管廳へ請求シ拂戻ノ許可ヲ得テ之ヲ受取人へ交付スヘシ
- 第二十四條 前條ノ手續ヲ了シタルトキハ會計課ハ報告書ヲ製シ知事決判ノ後歳入取扱順序ニヨリ大藏省へ報告スヘシ
- 第二十五條 會計整理期限前過渡金ノ追徴ヲ要スルトキハ會計課ニ於テ返納元帳ニ記入シ返納告知書ヲ調製シテ會計主務ノ押印ヲ得之レヲ納人へ交付シ該現金ハ金庫ニ返納セシムヘシ
- 第二十六條 會計整理期限後過渡金ノ追徴ヲ要スルトキハ前條ノ手續ニ依リ納額報告書ヲ發付スヘシ
- 第二十七條 會計整理期限後既往年度ニ屬スル經費ノ追給ヲ要スルトキハ知事ノ裁決ヲ得主務省ニ稟請シテ其承認ヲ受クヘシ



第二十八條 雜部金ノ現金ハ國庫金出納所ノ管守トシ會計課ニ於テ出納事務ヲ調理スヘシ

第二十九條 地方費ノ現金ハ總テ爲替方ヲシテ取扱ハシメ會計課ニ於テ出納ノ事務ヲ調理スヘシ

第三十條 收入金ハ納入ヨリト納證書ヲ徵シ現金ヲ爲替方ヘ預入レ其預リ切符ヲ以テ納付セシメ會計課長名印ノ領収証ヲ納入ニ交付ス

第三十一條 支出ハ仕拂切符ヲ調製シ之ヲ正當受取人ヘ交付シ爲替方ニ於テ現金ト交換セシム

第三十二條 爲替方ヨリ毎日収支ノ金肩甲乙二帳簿ヘ一様ニ登記証印ヲ爲サシメ取扱主任官認印會計課長制印ノ上一ハ會計課ニ留置キ一ハ爲替方ニ交付ス

第三十三條 但毎日爲替方ヨリ差出ス所ノ現金表ハ會計課長ノ認印スルモノトス

第三十四條 各地ヨリ到達スル現金ハ會計課ニ於テ之ヲ管理シ直ニ國庫金出納所又ハ爲替方ヘ預ケ入ノ順序ヲ爲スヘシ抵當品ハ總テ會計課ニ於テ之ヲ主管スルモノトス

第三十五條 現金ヲ各地ヘ送付スルトキハ會計課ニ於テ送金手形又ハ現金ヲ以テ遞送スヘシ

第三十六條 公債元金償還ノ當籤及利子ハ會計課ニ於テ報告書ヲ調製シ日本銀行又ハ代理店ヘ發送スヘシ

第三十七條 公債証書ハ其制印簿ニ處有人名証書高ヲ登記シ處有者變換及割印等ハ知事決判ノ上會計課ニ於テ處理スヘシ

第三十四條 年金恩給ハ支給期日ニ先チ仕拂請求書金額及場所仕譯書内譯明細書ヲ會計課ニ於テ調製シ知事ノ決判ヲ受ケ大藏省ヘ送達スヘシ

第三十五條 非職俸給ヲ交付スルトキハ歳出報告書ヲ調製シテ大藏省ヘ送付スヘシ

第三十六條 主管廳ノ収入ニシテ第二部歳入徵收ノ委託ヲ受クルトキハ歳入取扱順序ニヨリ會計課ニ於テ納額告知書ヲ調製シ各納人又ハ郡長ヘ配付スヘシ

第三十七條 左ノ報告書ハ會計課ニ於テ之ヲ調製シ知事ノ判決ヲ受ケ主管省ヘ發送スヘシ

第三十八條 會計年度内第二部歳入ノ徵收ヲ完了セサルモノアルトキハ歳入徵收未済報告書

第三十九條 會計年度内歳出ノ支拂完了セサルモノアルトキハ歳出未済報告書

第四十條 第二部歳入ニ属スル分ニシテ出納額閉前歳入ノ徵收ヲ完了セサルトキハ不納報告書

第四十一條 會計ノ整理期限内ニ於テ歳出ノ支拂ヲ完了セサルモノアルトキハ歳出未済報告書

第四十二條 會計整理期限内概算支出ノ精算ヲ完了セサルモノアルトキハ精算未済報告書

第四十三條 出納閉鎖ノ期ヲ過キ其年度ニ歳出豫算ノ残余アルトキハ豫算減額計算報告書

第四十四條 歳入歳出決算帳ハ會計課ニ於テ調製シ知事ノ檢閲ヲ受ケ會計主任名印ヲ以テ進達スルモノトス

第四十五條 本縣主管ニ属スル第二部歳入決算帳ハ収入仕譯書ヲ添ヘ會計檢査院ヘ送付ス



第二項 歲出決算帳ハ仕拂内譯書ヲ調製シ證書ヲ添テ會計検査院ヘ送付スヘシ  
 但年金恩給等ニ属スル証書ハ年度末ニ於テ一時送付スルモノトス

第三項 歳出ノ支拂ヲ完了スルトキハ歳出決算帳ヲ調製シ主管廳ヲ經會計検査院ヘ送付スヘシ

第三十九條 地方費ノ収支精算ハ會計課ニ於テ調理シ知事ノ檢閲ニ供スヘシ

第四十條 需用物品ノ購入ハ會計課ニ於テ知事ノ決判ニ依リ之ヲ施行ス其常用品ハ處用高ヲ概計シ豫メ之ヲ買置クヲ得臨時用ハ使用者ノ請求ニ應シ時々購入スヘシ  
 但價格五拾圓以上ハ入札法五圓以上ハ貳名以上ノ見積書五圓未満ハ適宜請求スルモノトス

第四十一條 物品ノ出納記帳ハ會計課ニ於テ議案ヲ調製シ會計主務ノ決判ヲ受クヘシ

第四十二條 物品ノ授受ハ別段定ムルノ順序ニ依ル

第四十三條 不用品ノ賣却ハ知事ノ決判ヲ得會計課ニ於テ入札賣却法ヲ以テ之ヲ處分スルモノトス

第四十四條 會計課ニ於テ各郡役所各警察署監獄縣立學校病院戶長役場國幣社ノ出納ハ時々檢査ノ未該實況ヲ知事ヘ具申スヘシ

第四十五條 爲替方ヨリ抵當トシテ差出シタル預ケ金額ニ對スル公債証書ハ其預ケ高ニ過不足ヲ生スル毎ニ會計課ニ於テ隨時之ヲ増減スヘシ

第四十六條 當廳ヘ貸預ケ金ニ對スル抵當品又ハ証書類出入ノ場合ニ於テ倉庫ノ開閉ヲ

要スルトキハ會計課長外課員一名以上必ス之レニ立會フヘキモノトス

第四十七條 金錢出納ニ關スル重要ノ帳簿ハ主簿者之ヲ管理シ毎日退廳ノ際倉庫ニ藏ムヘシ

○應第十九號 廿一年二月廿九日 秋田縣尋常師範學校  
 其校職員中委任待遇者旅費支給額左之通相定ム

旅費額

	瀛車賃	瀛船賃	管車馬賃	管車馬賃	管日當	管日當
委任待遇	一哩毎ニ	一海里毎ニ	一里毎ニ	一里毎ニ	一日毎ニ	一日毎ニ
年俸千圓	金九錢	金九錢	金廿八錢	金十六錢	金二圓	金一圓六十錢
年俸千圓未満	金九錢	金九錢	金廿二錢	金十二錢	金一圓四十錢	金一圓

○應第七十七號 明治廿一年五月九月 第一部 警察本部  
 明治廿一年度以降内國旅費規則第十條ノ増日當ヲ支給セス  
 右訓令ス

○應第四十七號 明治廿二年三月廿三日 第一部 第二部  
 本月十四日應第三十四號達本廳官吏傭員之文具料支給方法ハ別紙規則之通り更正ス  
 文具給與規則

第一項 此規則ニ於テ文具ト稱スルハ明治廿二年二月閣令第四號文具支給規則第一條ニ



掲クル物品ヲ總稱ス

第二項 官吏(知事以下一般官吏)及傭員(門衛小使取締職工ノ類ハ除ク)ニハ現品ヲ給セ  
ス文具料トシテ左ノ等級ニ應シ代料ヲ以テ給與ス

一等 一ヶ月金貳拾五錢

二等 全 金貳拾錢

三等 全 金拾五錢

簿記及官房書記事務者  
各課書記及寫字事務者並右ニ該當スル  
職ヲ奉スル者  
普通ノ官吏及傭員  
但製圖者製表者ノ類モ此内ニ包含ス

第三項 他官廳ヨリ兼任ノ者ハ本官ノ例ニ依リ文具料ヲ給與ス本廳内各部課ヲ兼務スル  
者ハ別ニ給セス遠隔ノ部課ヲ兼勤スル者ハ特ニ半額ヲ給スルコトアルヘシ

第四項 前項ノ代料ハ毎月七日支給スルモノトス但休日ニ當ルトキハ順延ス

第五項 各課長ハ該課ノ官吏及傭員ノ本則第二項各等級ニ該當スル官姓名ヲ區分取調來  
ル三月三十一日迄ニ會計課長ヘ通知シ其已後第六項第七項ノ異動ヲ生シ又ハ第八項ノ  
場合ニ於テハ其時々通知スヘシ

第六項 新任轉任非職廢官退官及死亡共當月分ノ文具料ハ全額ヲ給ス

第七項 非職廢官退官ノ者事務引繼殘務取調ノ爲メ特ニ命ヲ承ケ公務ニ從事スルトキハ  
其間尙從前ノ文具料ヲ給與ス

第八項 願濟休暇旅行若クハ病氣又ハ私事ノ故障ニヨリ上廳セサル月ハ文具料ヲ給與セ  
ス

第九項 門衛小使取締職工ノ類ハ代料ヲ給セス其詰所ニ應シ相當ノ定數ヲ設ケ現品ヲ配

二十二年  
令第十八號  
加ニテ但寄進

置ス

第十項 應接所會議所郡吏扣所人民扣所等ハ定數ヲ設ケ現品ヲ配置ス

第十一項 文具類ノ内雲形定木卷尺ノ類ハ各自ニ給與セス使用ノ部課若クハ掛ノ備トシ  
テ定數ヲ設ケ現品ヲ給與ス

第十二項 第九項第十項第十一項ノ定數及取締ノ方法ハ會計主務官之ヲ定ム  
但地方税ニ屬スルモノハ第二部長之ヲ定ム

現秋田縣法規上卷 終



明治二十二年八月廿六日出版

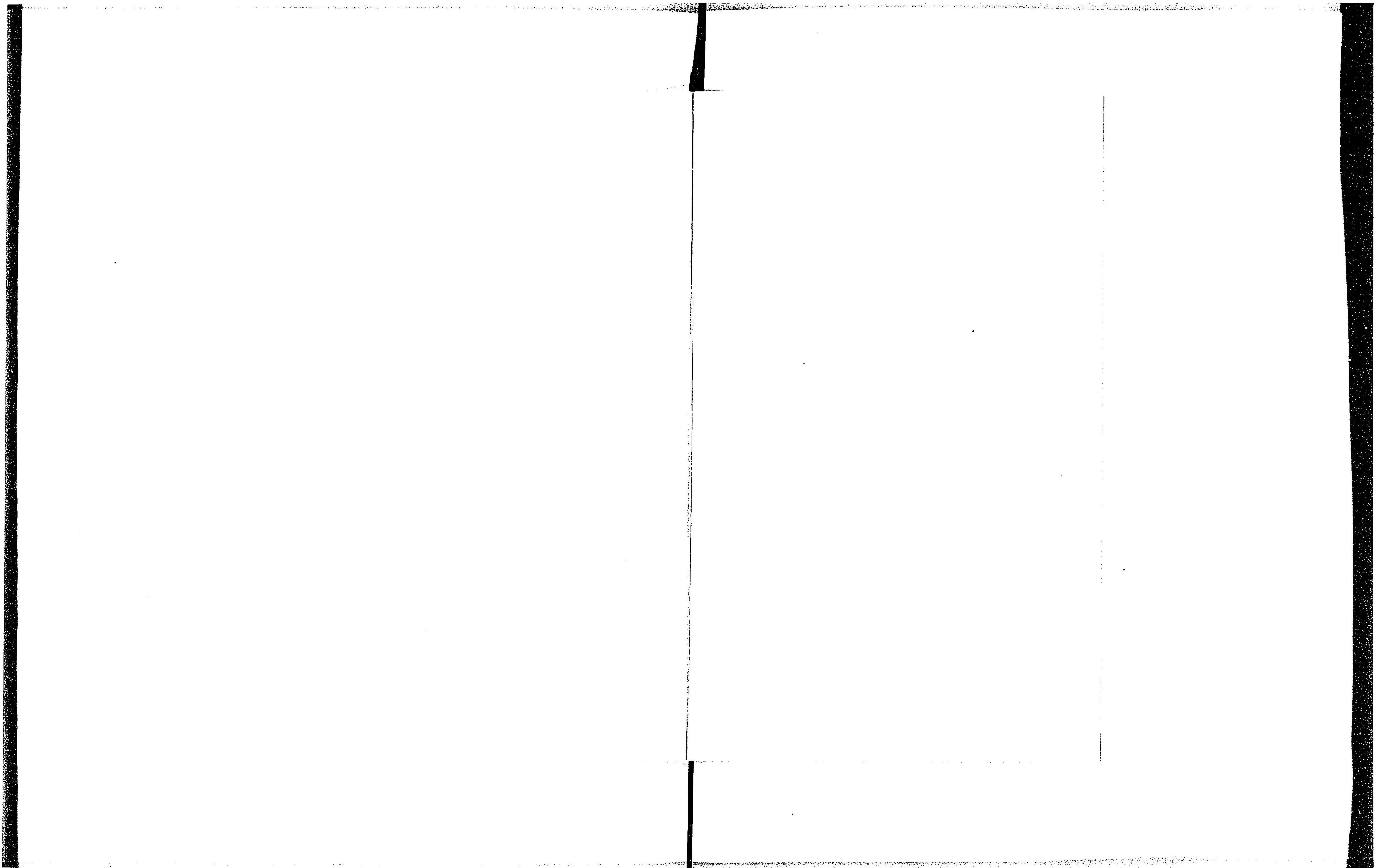
秋田縣



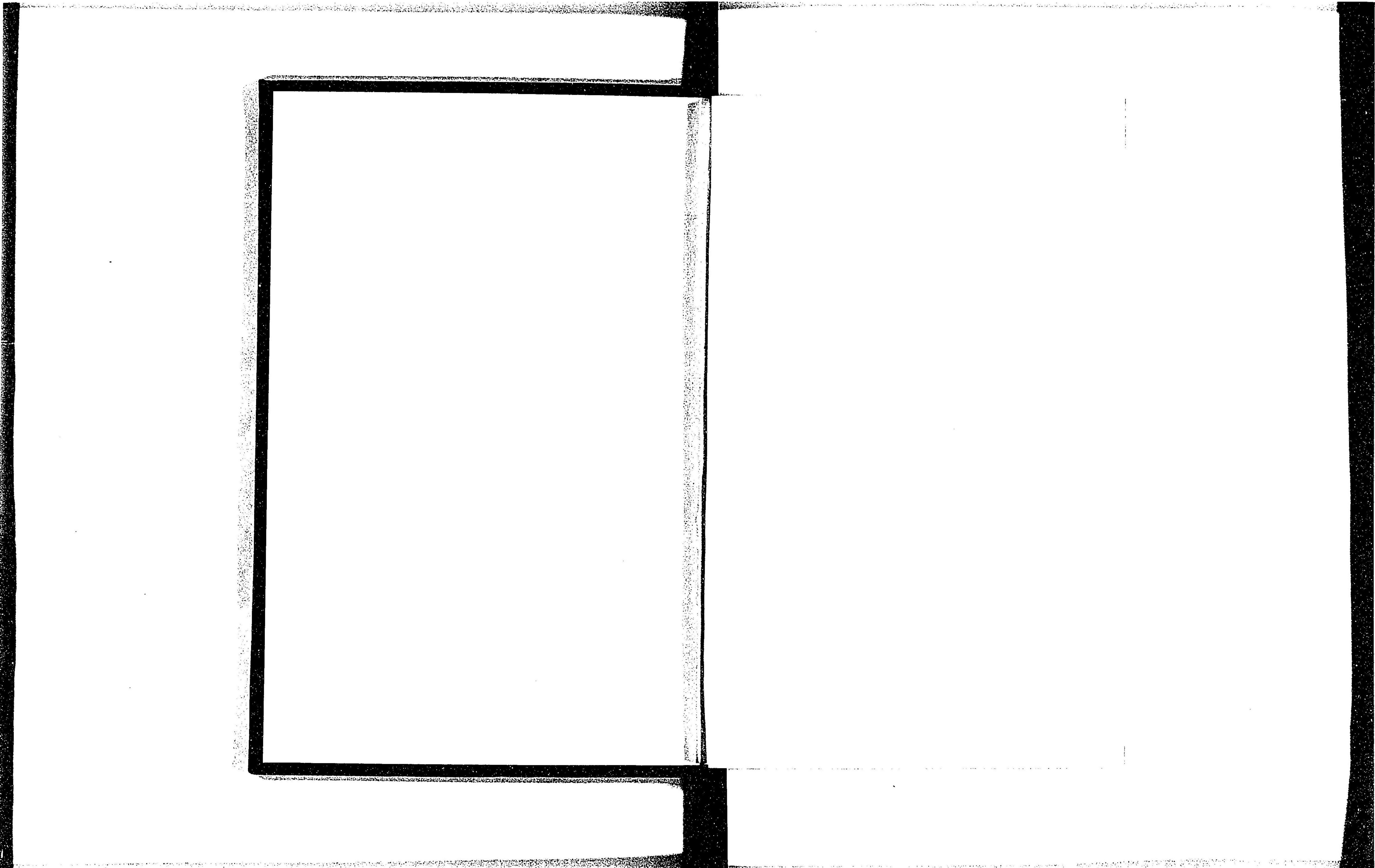
477J28

小  
口  
注  
意















禁電子式複写

031257-001-3

CZ-1113-19

現行秋田県法規

秋田県第一部

上

M22

BBD-0337





